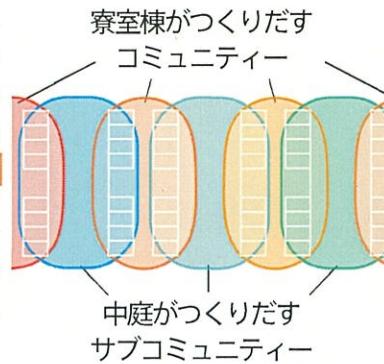


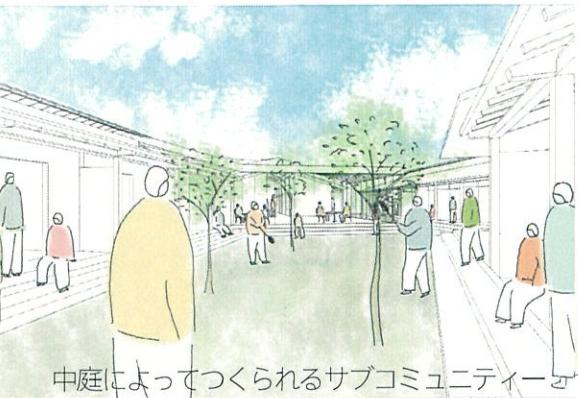
**「農知」交流の場:「(仮称)ふくしま農業人材育成センター」** 農業において交配により品種改良が行われるよう、学びにおいても教室や現場でのカリキュラム上の正規の学びにとどまらず、課外の活動や経験の中での他者と交流、いわば考え方の交配を行うことで、新たな価値や力を生み出すことができます。そこで我々は「(仮称)ふくしま農業人材育成センター」(以下人材育成センター)での学びの中に農業従事者、消費者など様々な他者との交流の機会をつくり出すことで人材育成センターを様々な農業に関する知の交流の場とすることを目指して、様々な立場の人々との対話を重ねながらつくりあげていきます。

## 寮室棟

寮室棟は人材育成センターを構成する最も重要な基本ユニット。そこで各寮室棟は学びと生活の良質な基本単位となるよう、品質の高い寮室(17室～30室、全室中庭に面したテラス付)と棟内の住人が共有する共用部(浴室およびラウンジ)とを組み合わせてつくりります。



中庭によるサブコミュニティ  
中庭はこれをとり囲む寮室によって形成されるコミュニティをつくり出します。寮生にとっては寮室棟が作り出すコミュニティとは半分ズレた(半分構成員が異なる新しいサブコミュニティ)。このようなサブコミュニティの存在は寮生たちのコミュニケーションのあり方にダイナミズムを与えていきます。



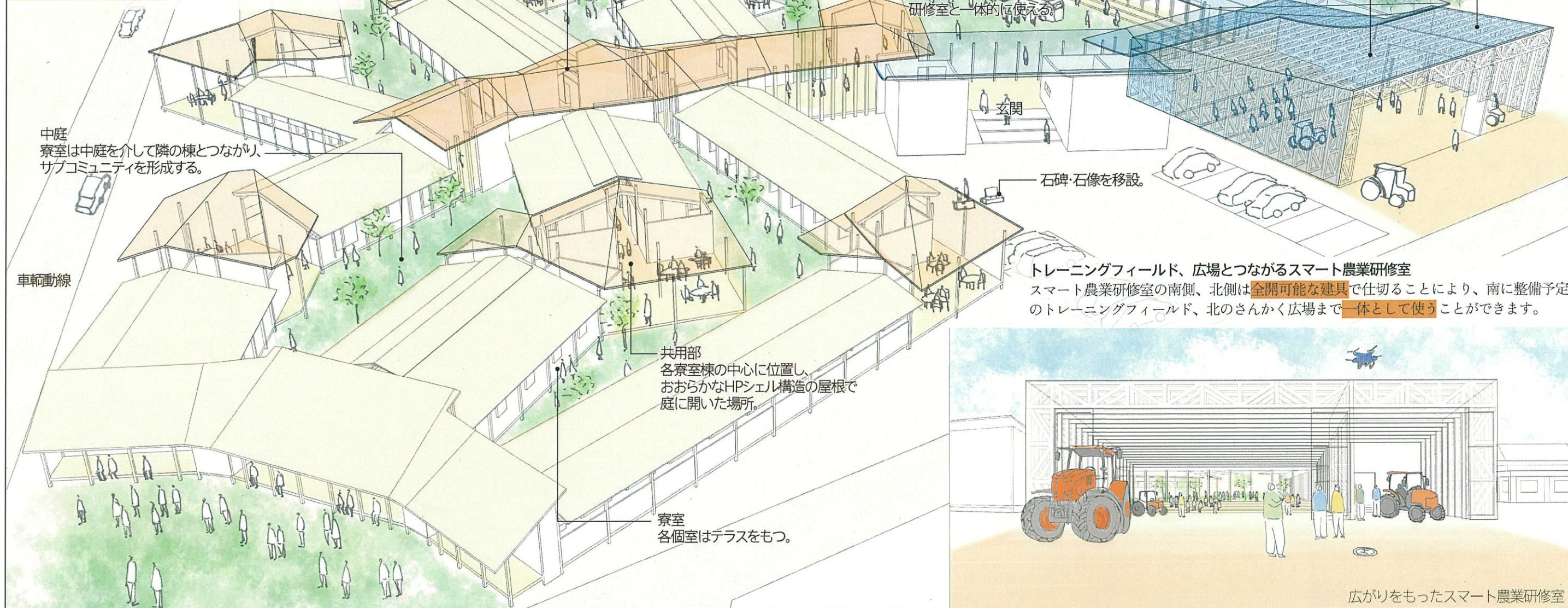
## 寮生活のハブとなるコモンスペース。

全ての寮室棟は全体をつなぐハブとして機能するコモンスペースに接続されており、寮生や、研修生・講師などの宿泊する利用者は必ずこのコモンスペースを通って各室に向かうことになります。ただしこのコモンスペースは単なる廊下(動線空間)ではなく、天井高や平面的な屈曲、開口のとり方などによって滞留したくなるような場が色々と設えられた滞留空間もあり、寮生たちの生き生きとした学習や交流を生み出す場となります。



## 外観、切妻屋根の集合する景色

生活交流エリアの寮室棟は単純な切妻屋根を少しづつ角度を振って配置することで寮室が連続する空間の单调さを回避しています。またこれに付随して中庭も平面形として長方形や平行四辺形ではなく角度が振れた四角形となり動きのある豊かな空間となります。県産材をふんだんに使うことで、地域の風景に溶け込みつつ暖かみのある農業大学校らしい風景をつくり出します。

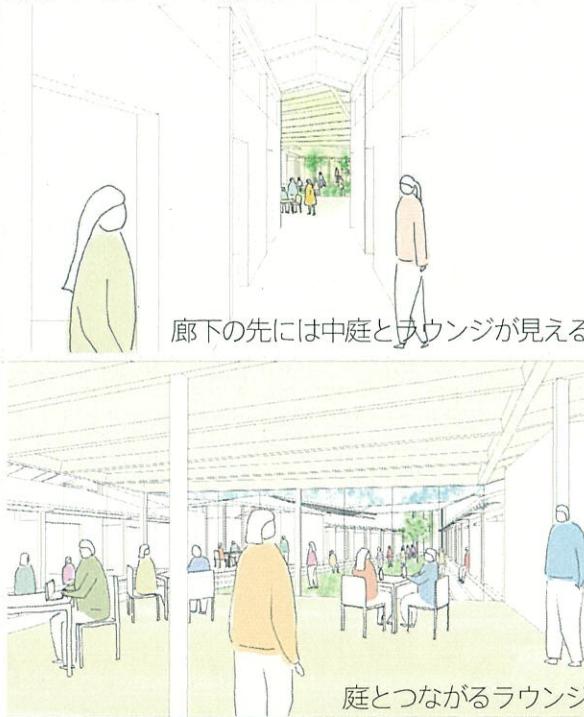


## セキュリティを確保しつつ開かれた施設

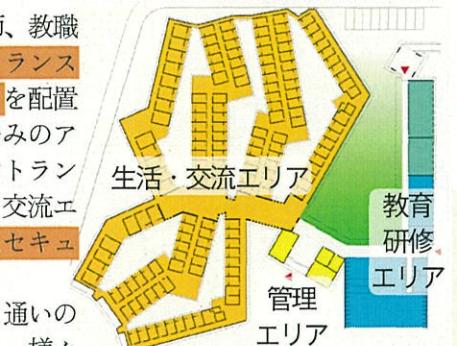
○建物全体のゾーニング 人材育成センターは学生、研修生、講師、教職員等、様々な利用者が使いやすいように考えて中央付近にエントランスを配し、その西側に生活・交流エリア、東側に教育・研修エリアを配置しています。生活・交流エリアは基本的にエントランス部からのみのアクセスとしてセキュリティを確保し、教育・研修エリアはエントランスからと本館側両側からのアクセスを可能とすることで、生活・交流エリアからの利用、外部からの利用、本館からの利用全てに適切なセキュリティ管理を可能としています。

○駐車場 駐車場は講師、教職員などが利用するエントランス前と通いの学生などが利用する屋外作業準備室付近、四阿前の2カ所に配置し、様々な利用者にとって使いやすい計画とします。

**寮室棟** 寮室棟は中廊下を基本として、一部片廊下の構成をとっています。このような構成は一体感を醸成するには優れていますが、一方で単調になりますが、そのため各寮室棟中央部のラウンジスペース部分でさらに屈曲させることで廊下の先に中庭の景色が見えるようにして単調さを回避しています。またこの屈曲により、廊下を歩いているときも単純には棟の全景が見通せなくなり、人々の意識の中での広がりすなわち「広さ感」が増すという効果もたらされます。

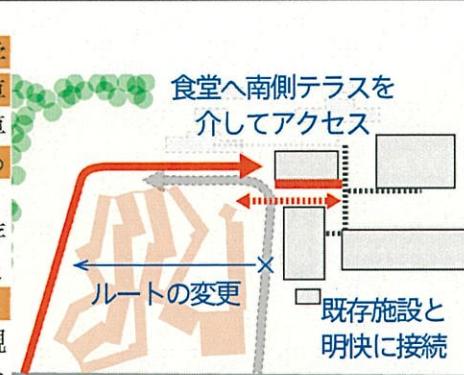


**構造** 寮室および研修室が室の用途の大多数を占める本建物は大スパンを要求する室が少ないところから（大スパンが必要なのはほぼスマート農業研修室のみ）、大部分を一般的な木造在来工法（もしくはその延長線上の技術）によって作ることができます。寮室の開口部の違いなどからX軸方向とY軸方向で取りうる壁量は異なりますが、一定室数ごとに軸を斜めに「振る」ことで取り合う棟どうしの相互の干渉によって地震時や風による挙動を抑えることが期待できます。スマート農業研修室については大スパンを確保するためにトラス構造を用いることとし、さんかく広場から同研修室、そしてトレーニングフィールドまでを一体的に繋いで使用できるよう門型の構造を並列する形式を採用します。

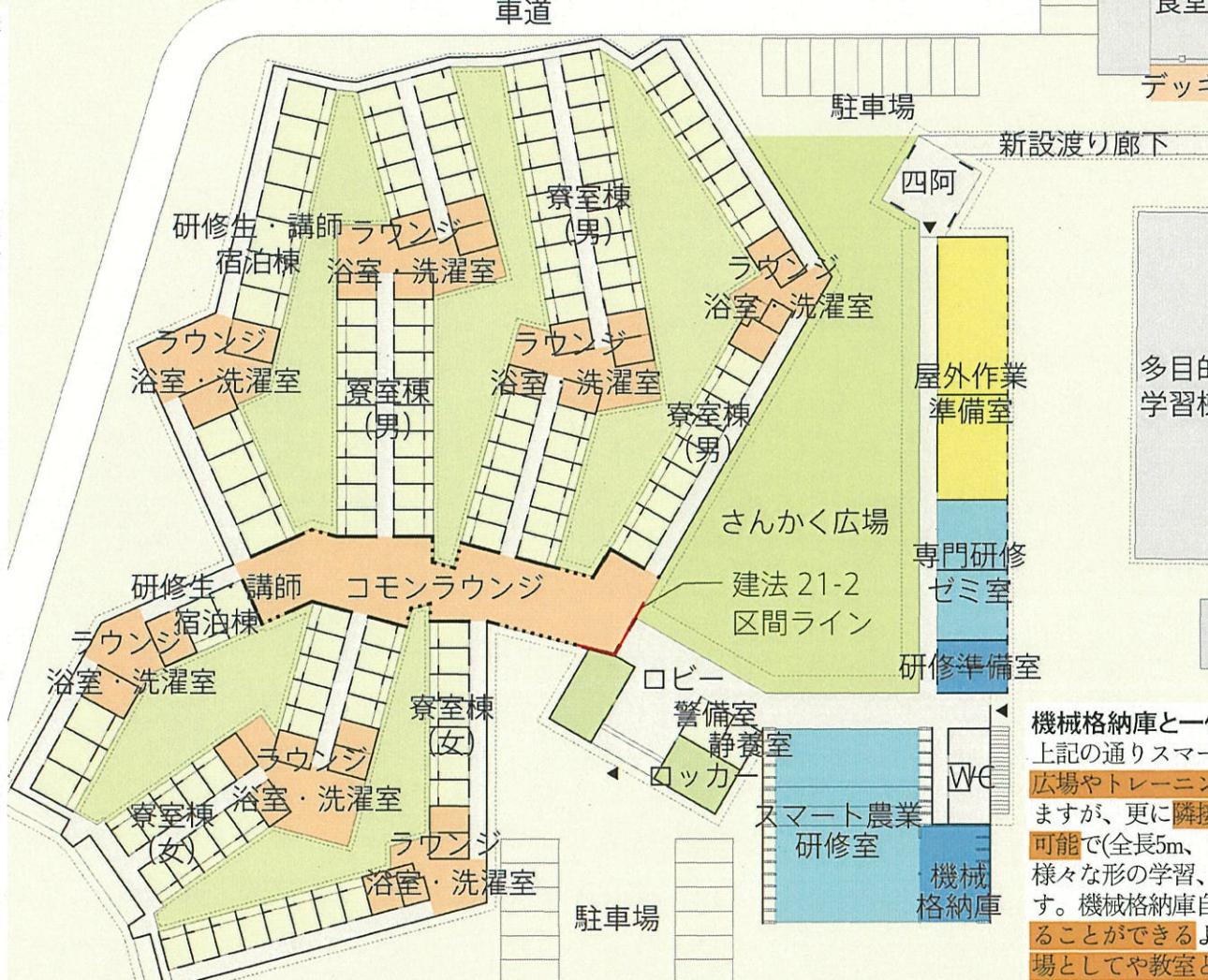


## 整理された車輌動線と既存施設との連携

現在の計画地東側を通る自動車の動線では「学生や研修生の食堂へ歩いて向かう動線」と「車輌のサービス動線」とが交錯することから、車輌動線を計画地の西側通り、計画地北東にある食堂や駐車場へと至るルートに変更します。これにより人材育成センターと本館などの既存施設を接続する渡り廊下も食堂南側を通すことが可能となり、本館等への連絡経路の「短さ」「明快さ」が獲得されると同時に食堂との「親和性」も向上させます（食堂南側テラスを介した食堂へのアクセス）。

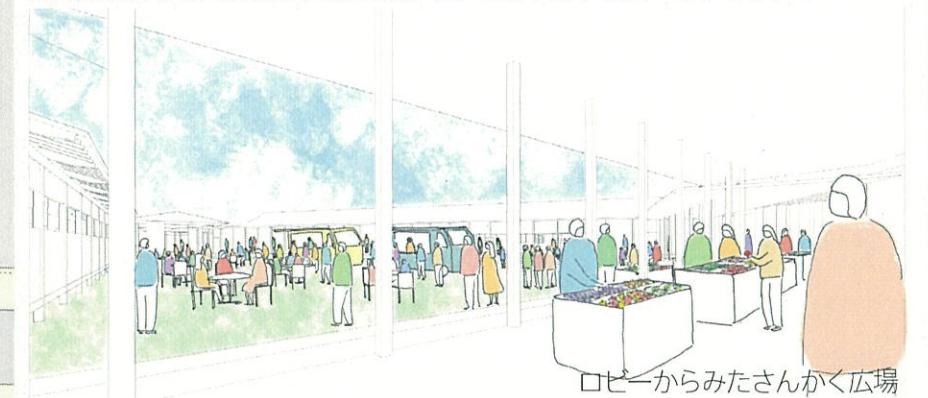


食堂前デッキと既存施設と連絡する渡り廊下



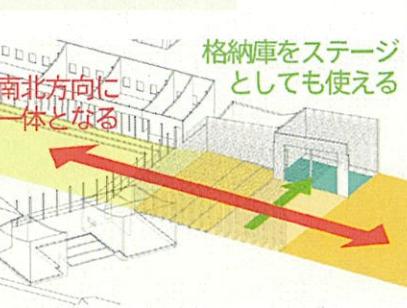
## 交流を促す様々な空間 さんかく広場

エントランスに入ると奥には研修室棟に囲まれた大きな三角形の広場が広がっています。この広場とスマート農業研修室との間の建具は全開することできるため広場とスマート農業研修室を一体化的に利用することができます。またスマート農業研修室とトレーニングフィールドとの間の建具も全開することができるところから、さんかく広場、スマート農業研修室、南のトレーニングフィールドは様々な組み合わせで繋げて（分けて）使用することができます。また広場北側から車輌も乗り入れができるので、フードトラックを持ち込んでイベントや、農機具の展示・デモンストレーションなども可能です。この広場は学生、研修生、指導者、農業者などが交流し、相互間の学びを生み出す場所となります。



## 機械格納庫と一体となったスマート農業研修室

上記の通りスマート農業研修室は建具を開けることでさんかく広場やトレーニングフィールドと接続して使用することができますが、更に隣接する機械格納庫との間の建具も開けることが可能で（全長5m、巾3m、高さ3mの大型トラクターが行き来可能）様々な形の学習、研修、イベント等々に対応することができます。機械格納庫自体も外部から直接トラクター等でアクセスすることができるようになっており、単独でも小規模な展示の会場としてや教室としての機能を果たせるものとなっている。



## 維持管理 木造建築は鉄骨造建築やRC造建築に比べ

てメンテナンスや更に維持管理にとどまらないレベルの改変等が圧倒的に容易です。変化の早い現代社会においては様々な変化に迅速に対応するためにこの木造建築の改変の容易さは大きな利点であると考えられます。本計画も建築のライフタイムでのエネルギー消費を考え木造のメンテナンスや改編時の容易さを常に念頭において計画を進めていきます。

降雪への配慮 計画地は年に数回数十cm～1m程度の積雪が見込まれます。我々は雪おろしの人員を継続的に確保することが難しいと考え、雪おろしによる低減をせずに（堆雪）荷重を見て計算すること（耐雪型屋根）を提案します。

**コスト** 木造平屋で主たる機能が寮室や研修室である本建物は基本的に木造在来工法で建設が十分に可能であり、汎用的な工法の採用はコスト削減に大きく資する。また寮を含めた集合住居は基本的に採光要件から奥行きがあまり深いものとできず、建物形状としては薄い形となりがちでそのため外壁率が高くなる（コスト高原因）。そこで本計画ではなるべく中廊下方式を採用して外壁率を抑えると同時に、コストの比較的かかる外部の共用部を内部にうまくつなげ取り込むことでコストを抑えた形で豊かな共用部を作り出すことを目指していく。

**断面構成** 寮室の基本的な断面構成としては切妻の中廊下型。軒を深くし軒高を抑えことで夏季の日射負荷を抑え、中廊下の頂部に排気口を設けることで重力換気によって機械空調を使わずアクティブゾーンの快適性を確保することを可能にする。

